

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	新規就農者の地野菜生産・加工を中核にした就農支援事業
事業主体 (連絡先)	王滝村 (王滝村役場 産業課 農業係：0264-48-2001)
事業区分	(6) 産業振興、雇用拡大に関する事業 (イ農業の振興と農山村づくり)
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	6,336,950円 (うち支援金：4,787,000円)

事業内容

【水稻・王滝かぶ・そば栽培作業講習会の開催】

継続事業3年目に入り、各種講習会では、特産品の品質向上と生産拡大を目指すため、それぞれに新規参加者及び3年目の継続参加者等を対象に、地野菜生産や新たな商品開発に取り組んだ。同時に、村内農業の大黒柱となる農作業受託組織、王滝村地域農業合理化組合（以下合理化組合）では、受託作業へ関わる新規のオペレーターを3年間で11人養成し、有望な人材を育成することができた。労力の省力化を目的に導入した最新式の農業機械を最大限活用し地野菜生産拡大に取り組み、素晴らし王滝産ソバを生産できる体制を作り上げた。更には王滝かぶの生産にも着手し、多くの村民の力を合わせ、1,200㎡のは場で2.7tの王滝かぶ生産に取り組んだ。また王滝かぶの新規加工作業員育成では夏すんきの生産にも取り組み、真空包装機材も整え技術の向上を図り、生産体制を築き上げた。



【子育て中のお母さんが新規就農】

【目標・ねらい】

- ① 多くの新規オペレーターによる地野菜栽培
- ② 村民の力を集結した王滝カブの栽培
- ③ すんき等加工作業員育成と技術伝承
- ④ 新規就農支援事業の現状を情報発信

事業効果

- ① 操作しやすい機械の導入により新規オペレーターの地野菜生産が実現。(合理化オペレーター15人中11人が3年間で養成された人材)
- ② 合理化組合の春秋王滝かぶ栽培では、総勢17名の村民が活躍。
- ③ 8名のすんき等加工作業員と真空包装作業員が育成された。
- ④ 村HPやインターネット「ターンズ」で王滝村の新規就農者・地野菜情報掲出

【水稻】R1作付面積 3.9ha→R2 3.9ha→R3 4.0 ha

【そば】R1作付 4.9ha 収穫 1.4t→R2 5.1ha 3.2t→R3 5.6ha 0.5t 凶作

【王滝かぶ】R1作付 0.7ha 収穫 10.7t→R2 0.7ha 5.5t→R3 0.75ha 8.5t

今後の取り組み

今年度は、そば栽培において、昨年ハード事業で整備したクリーンシダの機能性を発揮できるようにトラクタを新調し、耕運同時小畝立施肥播種作業に取り組んだため、播種機とトラクタのバランスが理想的となり、スムーズな運転操作が可能となった。そのためオペレーターそれぞれの作業時間短縮にもつながり、ますます省力化を進めることができた。高齢農業者から依頼のあったそば栽培作業面積約5.6haを受講者が連携し、昨年度よりもより多くのオペレーターで作業を進めることができた。3年前には、高齢農業者が一人で担当していた重労働を、今では多くの人材でカバーできるようになっている。担当されていた高齢農業者が体調を崩して後継者不足を深刻な問題としていたころとは違って、合理化組合に安定した人材の基盤が作られつつあり、同時に地野菜の生産も少しずつだが、増え始めている。今年度の成果としては、このようにI・Uターン者を交えた多くの人々で支え合い、農業の中心経営体育成に向けた人・体制づくりを充実させることができた点が挙げられる。これからは、王滝かぶ生産等を守るため、春秋の栽培等において、村民の協力体制も構築し、同時に村内の漬物加工作業員育成にも力を入れ、地元での地産地消にも取り組むことが、伝統ある食文化を守るうえで大切となる。

そして、今後のI・Uターン希望者に向けた魅力あふれるこの地の情報発信を充実させていくことが、この村の農業の中核となり得る新規就農者の確保に重要となる。村民と一体となって進めていきたい。

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

※自己評価【 A 】

【理由】合理化組合長を筆頭に11名の新規オペレーターが後に続き、地野菜生産に励んだ。水稻栽培では新規の若いお母さん方の力で休耕田が2年ぶりに復活し、ベテラン農業者と共同で見事な稲穂を实らせ、村の農業に活気が戻った。

(別記様式第12号) (第3の8関係)